

001 健

	読書日 2011年	タイトル	著者 出版社	表紙	コメント	評価
1	0205- 0209	十字屋敷のピ エロ	東野圭吾 講談社文庫 580円 (古200円)		ミステリーでは定番といえる屋敷もの。 十字屋敷で起きる連続殺人の凶行を人形のピエロに語らせる趣向。ピエロが推理の材料を提供すると共にピエロそのものが事件解明の鍵にもなっている。謎の裏にさらなる謎があり作者ならではのどんでん返し、登場人物の確執がきちんと構築されていて面白く読めた。	
2	0210- 0210	musicFreak Magazine&Es FlashBack ZARD Memories II	musicFreak 編集部 2,800円		元は無料の音楽フリーペーパー。ZARDの坂井泉水が亡くなった時ZARDを扱った号を一冊の本に纏めて出版されている。今回は有料会員配布となつてからのものを今年企画されているZARDデビュー20周年イベントに併せて一冊にしたもの。ZARDの足跡をたどれる貴重な資料。	
3	0211- 0214	観光資源大国 ニッポン	洋泉社MOOK 1,260円		近年の外国人観光事情とその裏にある暗部も含めて記事にしたもの。 デパート・家電量販店の観光客呼び込み作戦、海外ドラマ誘致によるロケ地の観光化、外国人宿、セレブからバックパッカーに至る観光事情、観光ビジネスの功罪、日本人には意外な人気スポットなどなど	
4	0215- 0217	誰も見たこと ない日本の領 土DVD	山本皓一 別冊宝島 980円		タイトルに惹かれて購入。 北方四島(北海道)、南鳥島(東京)沖ノ鳥島(東京)、竹島(島根)、対馬(長崎)、尖閣諸島(沖縄)、与那国島(沖縄)。著者は2006年までにすべての国境の島に上陸・取材とのことであまり報道されない国境の現状を紹介すると共に警鐘。 それぞれの国境の沿革史、領土問題における双方の主張も併せて記事にしているので分かりやすい。対馬などはハングルがあふれほとんど韓国。ちょっとショッキングな状態。	
5	0218- 0222	探偵倶楽部	東野圭吾 角川文庫 540円 (古175円)		セレブ専用の会員性探偵事務所が「探偵倶楽部」だ。そこから派遣される男女2人組が依頼された事件を究明する話で5つの短編を収録。 二人は「探偵」・「助手」の関係のほか美男美女のコンビという記述しかないが必要な時以外は登場せず淡々と依頼をこなしてはくだけだが結果は冷徹にして正確。読者は依頼者の言動から事件を推測するが最後は探偵によるどんでん返しが待っている。事件の善悪に関係なく依頼を完遂するのみというところが新しい。	

6	0223-0228	文藝春秋2011年3月号	文藝春秋 幻冬舎 860円		<p>第144回芥川賞受賞作掲載号 「きことわ」朝吹真理子 タイトルは主人公の貴子(きこ)永遠子(とわこ)からとっている。幼い日を葉山の別荘で過ごした従妹同士が別荘の解体を前に25年ぶりに再会。現在と過去の時間が二人の五感を通じて交錯する模様を繊細な文章で描いているが退屈。</p> <p>「苦役列車」西村賢太 著者が半モデルというある若者の過去と港の日雇い労働者として生きる自堕落な生活を綴ったもの。描写は巧みだがただそれだけではねえ・・・。</p>
7	0303-0306	麒麟の翼	東野圭吾 講談社 1,680円		<p>「新参者」で人情派に変身した感のある加賀恭一郎シリーズの延長と言える作品。「新参者」は連作短編形式だったが今回は日本橋の麒麟の像の前で発見された殺人死体を巡ってじっくり足で捜査する長編。帯のシリーズ最高傑作というのは残念ながら言い過ぎで自分は「新参者」の方が好きだ。</p>
8	0313-0318	ばんば憑き	宮部みゆき 角川書店 1,785円		<p>湯治旅の帰り、雨で足止めを食い老女の相部屋を引きうける。老女が語りだす50年前の忌まわしい出来事。表題のばんばとは恨みの念を抱いた亡者のこと。さまざまな恨みの念を持つ亡者を退治する連作もので6編の短編を収録。「日暮し」の政五郎やおでこ「あんじゅう」の青野利一郎と悪童3人組も登場し作者の江戸物の世界が連携して楽しい。</p>
9	0329-0406	カササギたちの四季	道尾秀介 光文社 1,575円		<p>三浦しおんの「まほろ駅前多田便利軒」が脳裏に浮かんだ。道尾秀介にしては明るい路線。リサイクルショップ「カササギ」の店長と同級生の店員日暮が客先で遭遇する事件を解決する連作もの。論理的なようでとんちんかんな推理をするカササギ店長。その彼を信望する少女の夢を壊さぬよう裏で必死に辻褃を合わせて解決策を考え出す日暮の悪戦奮闘ぶりがユーモラス。</p>
10	0407-0412	七人の鬼ごっこ	三津田信三 光文社 1,890円 (1,140円)		<p>命の電話にかかってきた自殺志願者からの電話。それをきっかけに自殺志願した男は殺され、その男の幼馴染みたちも連続殺人の被害に遭う。被害者たちの共通の子供時代の秘密とは？偶然の重ねすぎとホラーっぽくない結末が面白みに欠けるがこの内容でほとんどラストまで不気味な雰囲気損なわず引ったのは作者の力量と言えるのかも。</p>

11	0413-0420	月と蟹	道尾秀介 文藝春秋 1,470円		それぞれやり場のない家庭事情を持つ二人の少年がいつしか始めた「禁じられた遊び」のようなヤドカリを使った儀式。そこに一人の少女が加わったことにより複雑な人間関係に歪が起きついには事件が発生する。 思春期の少年が併せ持つ純粋さ・残酷さを抉り出し臨場感のある怖さを作り出しているところがこの道尾秀介らしい。
12	0419-0422	真夏の方程式	東野圭吾 週刊文春連載 10年1月14日号- 10年11月25日号 鶴見・横浜中央・ 川崎図書館	 画・駒田寿郎	6月6日単行本発売が待てず図書館で掲載雑誌を借りて読了。ガリレオシリーズの長編作。湯川は海洋資源開発の調査に訪れる電車の中で少年と出会う。少年は親戚の旅館で夏休みを過ごすに行くということで湯川もその旅館に逗留することを決めるが旅館の娘は海洋資源開発の反対者。女・子供は論理的でないのが苦手と公言していた湯川が二人を相手に時には諭し、時には論陣を張る。そんな中で同じ旅館の宿泊客が不慮の事故死を遂げたところから登場人物たちの隠された過去が浮き彫りにされてゆく。「学ぶ」とは何か「科学の役割」とは何か湯川が少年、娘に語る言葉が印象に残る。
13	0424-0426	吠う合戦屋	北沢秋 双葉社 650円		表紙の絵が何とも味があるので購入。 甲斐の武田、越後の長尾(謙信)に挟まれ土豪が割拠する中信濃の地に孤高の合戦屋が現れる。男は鬼神の如き軍才・武力を備えていたが凡人には受け入れられず人望が薄かった。 そんな男の夢はこれかと思う主君を見出し天下を取らせることだった。そして中信濃の有力豪族を担ぎあげ領土拡大を次々成功させてゆくが君主自体が成功の大きさから転落の不安を感じるようになり合戦屋を持って余し始める。史実を基に男のロマンと悲哀を描きある意味清々しい。
14	0426-0427	歴史街道 ノモンハンの真実	PHP 630円		いろいろな小説・映画などで日本軍の愚かさ、大惨敗の象徴として引用されるノモンハン事件だがソ連崩壊後の資料によりソ連軍の被害が明らかになりむしろソ連軍の被害の方が大きかった事、隠されていた事実が発覚。改めてノモンハンの戦闘状況、歴史的な意味合いを検証した特集を掲載、 歴史には隠ぺい工作が付き物だがこれとて真実かどうか検証できないところもどかしい。
15	0428-0430	ロマンス	柳広司 文藝春秋 1,470円		時代はジョーカーゲームより少し時代を遡った昭和初期で舞台は家族制度が残る華族社会。 主人公はロシアの血を受け継ぐ美男子。 冒頭の殺人現場から始まる物語は倦怠と華やかさがあいまって雰囲気の良い作品になっているがミステリーとしてはたいしたことはなく才あふれる主人公にしては痛快な場面が少ないのが残念。

16	0501-0504	名探偵の掟	東野圭吾 講談社文庫 620円 (古250円)		ミステリー小説定番の密室、時刻表、アリバイ崩しダイニング・メッセージなどのトリックをネタに自虐的に執筆したもの。ミステリーに馴染んだ人なら許せる範囲のお遊び的な作品12編だがそういう要素を除けばそれなりに筋は通っている。むしろミステリーという特殊な文学がどう読まれているか熟知したうえでトリックに安易に頼る作品への戒めの意味が込められているように思う。
17	0504-0508	天空の蜂	東野圭吾 講談社文庫 880円 (古250円)		爆発物を積んだ無人操縦による大型ヘリを高増殖炉に墜落させるという犯人側の脅迫。要求は稼働中の原発を止めること。書かれたのは20年も前のことだが福島原発の例を見て分かるように原発を巡る議論が先送りにされてきていたのがよく分かるほど丁寧に取材されている。
18	0506-0508	ダ・ヴィンチ 2011年6月号	メディアファクトリー 490円		毎月6日発行のコミックスを含む書籍情報誌 東野圭吾作品の2大スターである加賀恭一郎とガリレオシリーズの湯川学を特集していたので紹介の意味で読書リストに掲載。 TVドラマの加賀役の阿部寛はイメージに合う。「新参者」の時はコミカルな部分も演じていたが「赤い指」の特番の時はシリアスに演じていてこちらの方がよかった。
19	0509-0511	分身	東野圭吾 集英社文庫 730円 (古250円)		母親に似ていないこと、母親の冷たい眼を意識して育った氏家鞠子。あるきっかけから自分の出生の秘密を調べ始める。一方、アマチュアバンドのボーカルとして母親の反対を押し切りTV出演をしたことで母親がひき逃げに遭う。母子家庭で育った小林双葉も父親のことを知らされておらず自分の出生を調べ始める。そしてそれぞれ自分と同じ顔を持つ人物が存在することを知る。20年前に書かれたものであるが当時でも医療・遺伝子工学の分野で研究テーマになっており倫理的にはいろいろな問題点を含むことを物語の中で描いている。
20	0512-0515	回廊亭殺人事件	東野圭吾 集英社文庫 540円 (古250円)		館ではないがそれに準ずる変わった造りの旅館。持ち主の遺産相続で親族が一堂に会する。親族の確執、半年前に起きた同旅館での故人の秘書の心中事件をからめ殺人事件が起きる。変形の密室と人間関係を駆使したトリック。ここまで来ると推理の域を越えているので読者はせいぜい根拠もなく犯人だけはわかってしまうがさらにその奥があるのはずくはないがうまく辻褄を合わせましたねというしかない。